

「(香港中文大学サマースクールプログラム(中国語コース)) 参加報告書」

京都大学大学院経営管理教育部 修士2年 松井宏文

①学習成果

今回参加したプログラムで私が得た学習成果は①中国語の初歩的な運用能力②香港文化圏の理解、の2つにまとめられる。①中国語にまったく手付かずの状態での講義を受けることとなったが、現地の講師お二人が丁寧に指導して下さったので、日々成長を感じながら中国語の運用能力が身に付いた。教室の外において、目的の場所の位置を知りたい場合や買い物の際、拙いながらも中国語で行うことができた。②香港文化圏の理解は、今回の成果として最も大きいと考えられる。日中の国際関係が良好とは言えない中、香港の人々は非常に親日であり、街中には日本の商品や和食レストランが豊富にあった。また、客観的にみても、香港人の素行や考え方は非常に共感できるものであった。渡航前は若干ネガティブな印象をもっていたが、良い意味で裏切られたと感じる。やはり、ニュースや文献情報では、真の国際理解は達成できないであろう。現地体験が重要である。

②海外での経験

課外活動として、香港中文大学によって企画されたマカオツアーやシェンチェンツアーなどに参加した。前者のツアーでは、旧ポルトガル領ゆえにその名残を残す名所・遺産の散策や、マカオのシンボルとも言える各所のカジノ・ホテルを見学した。また、ポルトガル料理や有名なエッグタルトの食事を楽しむことができた。後者のツアーでは、中国本土にある経済特区の一つ、シェンチェンの現代的な場所を散策した。ここで感じたことは、中国本土の人と香港の人の気質・素行はかなり違いがあるということである。ほぼ同じ民族とは言え、行政等の違いで文化的な違いが生まれることは興味深いと思った。香港においては、学習時間以外は同じ留学生とともに街に繰り出し、香港各地をくまなく観光した。現代的なビル、歴史的な建造物、豊かな自然等がバランスよく存在する非常に良い町並みであったと感じた。また、実感として、香港ではやはり公用語は広東語であり、普通語は50%ぐらい、英語はほとんど通じない、という印象を得た。

③プログラム内容

プログラム内容は大きく分けて、Ⅰ中国語講義Ⅱ前述のツアー(マカオ・シェンチェン)の2つである。Ⅰ私が受講した中国語の講義は入門講義であり、最初は発音から始まり、最終的に単純な日常会話ができるようになることを目的としたものであった。Ⅱは前述のとおりである。

④進路への影響について

私の進路先は総合商社であり、今回のプログラムに参加した理由も、国際的なフィールドでビジネスを展開する総合商社に勤務する上で、非常に有益であると感じたからである。そして、その選択は間違っていなかった。社会にでてからも、「現場での実体験を重視する」ことを念頭に置き、国際的なフィールドで活躍していきたいと強く思う。